

## 第22回企業防災連絡会

日時：10月2日(水) 場所：名古屋市内  
参加者：約80名

テーマ

### 東日本大震災被災に伴うBCP発動について

講師 鈴木工業(株) 専務取締役 **鈴木 伸彌 氏**

会社紹介 1966年7月15日設立  
廃棄物処理およびリサイクル、上水・下水施設の清掃およびメンテナンス等



#### 講演要旨

##### はじめに

私どもは、宮城県仙台市で、上水や下水施設の清掃やメンテナンスを行い、企業や自治体から出てくる産業廃棄物をリサイクルするとともに、適切な処理を行っています。保有している設備は、内陸側に本社とリサイクル施設、仙台港から500m程離れた場所に中間処理施設があります(図1)。

本日は、震災以前のBCP準備、被災に伴うBCP発動、復旧・反省について、この場をお借りして紹介し、皆さまのお役に立てればと思っております。

##### BCP導入のきっかけ

当社は、地域の皆さまのライフラインと密着する仕事をしているので、「地震が発生したので活動できません」とは言えません。宮城県沖地震の発生確率が30年間で99%との報道を受け、2008年9月に、

社内に社長、役員、各所属長の10名によるBCP策定委員会を設けました。防災訓練との違いも分からない状況でしたが、1年以内にBCPを策定するとの目標を立てました。当社には、営業部、業務部、環境リサイクル部、総務部があります。各所属長は現場へ持ち帰り、社員全員参加でBCPに基づいた事前対策を検討しました。

##### BCPに基づいた備え

環境リサイクル部は、津波は想定していませんでしたが、宮城県沖地震6強程度の地震が来た場合に、ゴミが増加すると考え、焼却施設の復旧を重要業務に挙げております。復旧目標を6日間としましたが、「焼却炉に特殊な部品が多数使われているため、6日間で部品を確保するのは困難だ」との意見があり、予備の特殊部品を、中間処理施設とは別のリサイクル施設に保管することにしました。

修復には特殊な技術が必要なので、一部の取引会社との協定を締結させていただきました。

総務部は、社員全員へBCP訓練を行うことを決め、BCPとは何かをかみ砕いて説明し、模擬演習も行いました。訓練により、お客さまや社内連絡用に配備した衛星電話の使い方が分かっていなかったことを認識するとともに、社員一人一人が「BCPについて」、「何を行えばいいか」、「会社からの準備品」について確認しました。



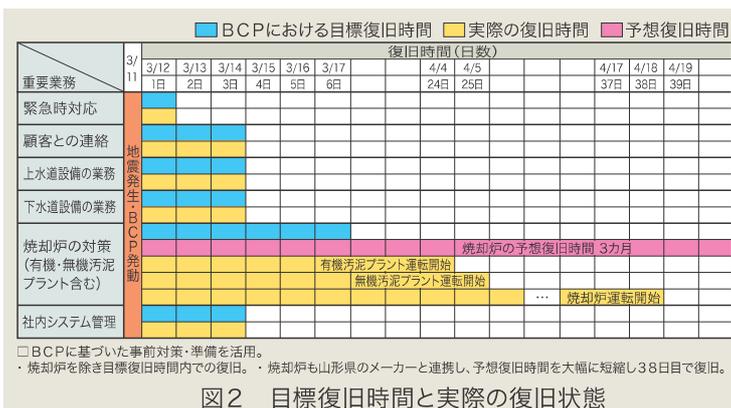


図2 目標復旧時間と実際の復旧状態

## BCPに基づいた復旧作業(図2)

### 3月11日 14:46に大地震が発生

地震から約40～50分後に社長からの一言でBCPを発動しています。本社社屋では、地震の転倒対策で筋交いを行っていたのですが、書類棚などは倒れてしまい、足の踏み場もありませんでした。余震が続き、マニュアルを広げて見られるような状況ではなく、研修を通じて覚えていたことを、ただ実践しただけです。この時、社長をはじめ役員は、社員の安否や経営のことで頭がいっぱいになり、呆然としているところに、若い社員が、「中間処理施設を6日間で復旧させるためには、電気が必要なので発電機を借りてきてもいいですか?」と言ってきたことを覚えています。

### 3月12日

お客さまやメーカーに対し、衛星電話等を使用して状況の確認をしました。山形県の焼却炉メーカーにはこの時点で連絡を取り、中間処理場の状況が分からなかったのですが、現地調査の依頼をすることが出来ました。

### 3月13日

お客さまから連絡を受けた社員が清掃活動を始めました。なかでも、人工透析を行っている病院では大量の水が必要になるようです。貯水タンクのバルブから飲料水を確保し、し尿の汲取りを行ったのですが、後日感謝状まで頂きました。

### 3月14日

社内システムはこの日から復旧し、パソコンが使えるようになりました。この日に、中間処理施設を見に行っています。近くまで車で行けない状況のもと、2～3km手前に車を止めて、焼却炉メーカーと共に確認しています。中間処理施設は高さ5mの津波の

被害により、事務所や重機も100mほど流されてしまいました。現地の状況から6日で復旧させることは出来そうになく、別保管の特殊部品を使用して、3カ月で復旧させるように目標を変更しています。

### 3月15日

中間処理施設が使用できないこともあり、県外の同業者に廃棄物処理の依頼をかけました。というのも県内の同業者は壊滅的被害を受けていたためです。他県で処理を行うためには、排出と処理を行う自治体双方の了解を頂かないといけないため、事前の協定は結べていませんでしたが、この時ばかりは自治体からの許可をすぐに頂き対応しました。

3月17日以降、お客さまの要求に対して、他県の代替処理業者と連携して当社の事業を継続することが出来ました。早期に発電機を借りてきたこともあり、38日目には焼却炉も修復し、足場を組んで、ブルーシートをかけた仮設の状態焼却を始めています。

## BCP活動の総括

BCPを策定して良かった点が3つありました。1つは社員一人一人がBCPを理解し、マニュアルが無くても一丸となって事業継続ができていた点。2つ目は、当社だけでは何もできなかったところを関係会社や協力会社に助けていただき、普段からの取引の重要さを感じた点。3つ目は、衛星電話、発電機、特殊部品をリスク回避として確保できていた点です。

問題点としては、①安否確認(衛星電話さえあれば何とかなんと甘い認識)、②電源確保(OA機器でも使用できる発電機の準備不足)、③食料確保(備蓄していなかった)、④燃料確保(備蓄していなかった)があり、BCPを見直しています。

## 最後に

今までは考えられない、竜巻や豪雨などが各地で発生する可能性があり、うちは大丈夫だろうというのは通用しない時代になってきています。パンデミックやテロについても会社として対応していかなければならない課題ではないかと考えています。

(社会基盤部 西井 憲治)